



大学図書館 COVID-19 影響調査隊、解散。

国立大学図書館(86館)のCOVID-19による開館/休館、サービスへの影響を本格的に調査し始めたのは2020年のゴールデンウィークからでした。最初は1人でやっていたが、自ら参加したいと申し出てくれた仲間が徐々に増えて最大5名となり、2021年5月からは公立大学図書館(98館)へも調査対象を拡大しました。〔※1〕

調査開始時は、全体の8割以上が休館を余儀なくされていましたが、毎週見続けてきた3年の間には、各大学や図書館の方針の違いが感じられる変化がありました。そして、政府の対策が大きく方向転換しようとしていた2022年度末、各館の対応状況も安定傾向にあったことから、2023年3月をもって毎週の定期調査を終了することとしました。

3年間、毎週末かかさず続けてこられたのは、ひとえに4人の仲間たちのおかげです。それぞれの思いを語ってもらうことで、この調査隊の解散宣言に代えたいと思います。

箱田 愛

《東京藝術大学附属図書館＝調査参加当時》

2020年春、突然のコロナ禍、突然の緊急事態宣言、そして自宅待機や在宅勤務の日々。2023年春の今、振り返ってみるとこれまでにない非日常の連続だったなあとと思います。

調査には2020年5月に参加し、2021年1月にはsaveMLAKニュースレター第67号にて小陳さんに調査のきっかけや経緯についてご寄稿いただきました。〔※2〕

その時点では2名での調査でしたが2021年には3名の方が加わり、公立大学調査も始めることができました。

3年間、毎週の定点観測でそれぞれの大学図書館がこの状況のなかで様々な工夫やサービス、そしてオンラインなどの新しいサービスについても取り組まれていた様子を拝見し自分自身としても大変勉強になりました。また、収集したデータを公開したことでデータを引用されているブログや報告

書、レポートなどもいくつか拝見しました。調査が広く共有されているのだなあと実感した出来事でした。

参加されたみなさま、そして最初から最後まで取りまとめてくださった小陳さん。大変お疲れ様でした。

尾城 友視

《東京大学附属図書館》

2021年の2月から、かれこれ2年間ほど調査に参加しました。当初はまだコロナの影響が大きく、休館情報やサービスの縮小あるいは再開に関する更新が毎週のようにあり、各館がそれぞれに苦慮しながらもサービスを維持しようとする様子を目の当たりにしていました。

2022年以降はだいぶ状況は落ち着いたように感じられましたが、冬になると今度は光熱費高騰の影響が各所に現れるなど、潮目が変わってきたことを実感しています。

調査は終了しますが、調査を通じて(多分)養うことのできた視点をこれからも大事にしたいと思います。一方で、コロナ禍で半径10メートルくらいの狭い世界のことに神経を使うのにはすっかり疲弊していたので、毎週全国の大学図書館の動向を追うことは大切な気分転換の時間でもありました。

小陳さんをはじめ、一緒に調査に加わっていた皆さま、お疲れさまでした。そしてありがとうございました！

小村 愛美

《大阪大学附属図書館》

2021年5月から参加しました。全国の国立大学、公立大学のホームページを見ていくと、コロナ対策には共通点もありつつ地域や設置母体による差も見て取れましたし、ホームページの構成、情報開示のやり方にもいろいろな差があるのだなと感じていました。

私は2022年12月で調査から離れましたが、振り返ってみると、新型コロナの拡大状況と各大学の対応方針、授業期や休業期といった大学の学年暦など、様々な要素によって維持されるサービス・再開されるサービス・再開できないサービスがホームページに表れていたのだなと思います。

取りまとめてくださっていた小陳さん、一緒に調査させていただいた皆さま、ありがとうございました。

下村 朋幸

《国立精神・神経医療研究センター図書館》

2021年10月から参加しました。作業を通じて、新型コロナ関連以外でも各大学で独自のサービスやホームページ構成といった、各館の取り組みについて知ることができ、とても勉強になりました。遠

出がなかなかできない中、心だけでも全国を旅して回っていたような感じでした。

※1 調査結果公表ページ

<https://savemlak.jp/wiki/covid-19-survey>

※2 「国立大学図書館の開館動向調査は毎週継続中」 saveMLAK ニュースレター第 67 号 (2021/1/12)

https://savemlak.jp/savemlak/images/d/d/b/saveMLAK_Newsletter_20210112.pdf

※3 「図書館総合展 2022 saveMLAK プロジェクト企画 開催報告」 saveMLAK ニュースレター第 76 号 (2023/1/2)

https://savemlak.jp/savemlak/images/6/62/saveMLAK_Newsletter_20230102.pdf

【小陳 左和子

《東北大学附属図書館＝調査参加当時》】

年次報告会 2023 開催報告

2023 年 6 月 25 日(土)、saveMLAK の年次報告会 2023 を開催したので報告します。

14:00 からの第 1 部は第 146 回 saveMLAK MeetUp で、saveMLAK の活動について話し合いました。saveMLAK では、運営に関する議論と承認の場として、MeetUp と呼ぶ会議を月に 1 回のペースで開催しています。オンラインで開催し、どなたでも参加できるようになっています。第 146 回の MeetUp では、会計報告や口座の持ち方、総合展イベントのことなどを話し合いました。

15:10 過ぎからは第 2 部として、「海辺の図書館」の庄子隆弘氏から「図書館体操から海辺の図書館へ～東日本大震災から 12 年間、何が残り何が失われつつあるのか」と題して御講演いただきました。

「海辺の図書館」は宮城県仙台市の荒浜地区にあります。講演は荒浜地区からの中継で始まりました。2014 年から始まった「海辺の図書館」は人を本に、地域全体を図書館に見立てて活動しています。具体的な活動内容は公開されている配布資料や動画を見ていただきたいのですが、図書館という名でありつつ、博物館的でも、公民館的でもある活動が展開されています。その活動の中でも気になったのは「卒論発表会」というものでした。卒論で被災地を研究した学生が、研究内容を発表するというものですが、研究対象になると疲れる、研究者と研究対象者との関係を変えたいという言葉

に、COVID-19 調査関係での情報発信についても同じような課題があるかもしれないと思いました。「海辺の図書館」は個人の好きを起点に、かかわりしを醸成するような活動を続けています。災害という非日常は終わったかのように思えますが、日常における繋がりや備え、そして伝承を積み重ねることが重要と感じました。

講演後は、この 1 年間の振り返りと今後の活動について議論しました。1 年間の活動は、ニュースレター及びプレスリリースにまとまっておりますので、ぜひ過去のニュースレターもご覧ください。

その後、現在も継続中の博物館基本情報更新 2023 について、ミニエディタソンを行いました。博物館の基本情報(住所やウェブサイトの URL、SNS アカウントの有無等)を更新するものです。「Editathon-博物館基本情報更新 2023」のページに詳細が掲載されています。

災害が起きたとき、どこにどんな MLAK 施設があるのか、事前に把握するためにも情報の更新は重要です。1400 館のデータを更新するのは大変なことです。ご興味のある方はぜひ参加して、1 館でも更新していただければと思います。

当日の講演資料・動画は下記 QR コードから参照できます：



当日配布資料



講演動画

【子安 伸枝】

映画紹介「福田村事件」(9月1日全国公開)

関東大震災から 100 年を迎える本年 2023 年には、多くのイベントや展示、慰霊式などが開催され、これからも引き続いていきます。関東大震災直後の混乱時に、デマが原因で 6000 人を超える朝鮮人・中国人が虐殺されたことは知られていますが、日本人が朝鮮人に間違えられて殺された「福田村事件」は今までほとんど知られていませんでした。

デマによって多くの命が奪われた事実を、100 年昔のこととして歴史の闇に葬ることはできません。ポスト・トゥルース時代と呼ばれる 21 世紀の今こそ、フェイクニュースが飛び交う現状に警鐘を鳴らすべく、情報に関わる saveMLAK のメンバーにぜひこの映画を見てほしいと思います。

東日本大震災の折にも、Twitter で偽情報が繰り返りツイートされたことは記憶に新しいでしょう。これからやってくる災害に備え、過去の教訓を共有しませんか。

(以下の拙文は、機関誌編集者クラブ「編集サービズ」2023年8月号に掲載されたものです)

関東大震災から百年を期して、ついに朝鮮人虐殺事件がテーマとなる作品が公開される。それは幼児や妊婦を含む日本人9名が朝鮮人と間違えられて惨殺された福田村(現・千葉県野田市)事件である。

1923年夏、植民地朝鮮で教師をしていた主人公が、ある事件をきっかけに職を辞して妻と共に福田村に帰ってきた。そのころ、香川県を旅立った薬売りの行商人一行15人は野田村に到着した。彼らは被差別部落の人々であり、その口からは被差別のつらさがこぼれ、朝鮮人を蔑視する言葉も出てくる。

物語は運命の日、9月6日に向かって動いていく。震災前の福田村の人々の生活をじっくりと描き、在郷軍人たちの「愛国心」やシベリア出兵の戦死者の葬儀場面を映し出す。そして9月1日に大震災が起き、たちまち「朝鮮人が井戸に毒を入れた、集団で襲ってくる」という流言飛語が飛び交うこととなる。なぜそのようなデマに人々が飛びついたのか。植民地支配への朝鮮人の不満は高まっており、震災の4年前には三一独立運動が朝鮮全土で起きていた。また、第一次世界大戦後の「大正デモクラシー」の風潮にあつて労働運動は盛り上がり、警察の弾圧も激化していた。

そのような背景のもとに事件は起きた。この映画では9月3日に東京・亀戸で起きた労働運動家虐殺事件も描くため、亀戸と福田村との時空間の移動がやや把握しづらいかもしれない。時代の大きな流れのなかで事件が起きたことを知るために、最低限の歴史のおさらいは必要だろう。野田醤油争議の風景も歴史的背景の一つとして点描されている。

そして後半のクライマックス、殺戮場面で一気に緊張感がみなぎる。讃岐弁を話す見知らぬ行商人一行を見た福田村の人々は興奮し、手に手に竹やりや農具を持ち、大声で喚く。「お前ら、朝鮮人じゃないのか」と。懸命に止めようとする村長や主人公夫妻の言葉も村民には届かない。

そこに響く、行商人親方の腹の底からのある言葉。このセリフこそが本作の真骨頂だ。

一方で、「俺たちはこれからもここで生きていかなくてはならねえんだ」という加害者側の言葉が持つ絶望感も印象深い。加害と向き合う過酷さが、そ

の後百年近くも地元から正式な追悼や謝罪の言葉が聞こえてこなかった要因だろう。

昨今、フェイク情報がSNSを通じて拡散される時代となった。本作ではマスコミの役割の大きさも描かれている。加害者たちが暴虐に至った引き金が「恐怖」だとすれば、その根源には何が横たわるのか。本作が議論のきっかけになることを願う。

2023年、日本、137分

- 監督: 森達也
- 脚本: 佐伯俊道 井上淳一 荒井晴彦
- 企画: 荒井晴彦
- 音楽: 鈴木慶一
- 出演: 井浦新、田中麗奈、永山瑛太、東出昌大、ピエール瀧、水道橋博士、豊原功補、柄本明

【谷合佳代子 エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館)】

3~8月の出来事と今後の予定

2023年2月25日(土)~3月2日(木)

✓ COVID-19の影響による図書館の動向調査 (第35回目)

2023年3月11日~

✓ Editathon-博物館基本情報更新2023を開催
2023年3月15日(水)

✓ 第143回 MeetUp を開催

2023年4月15日(土)~4月21日(金)

✓ COVID-19の影響による図書館の動向調査 (第36回目)

2023年4月18日(火)

✓ 第144回 MeetUp を開催

2023年5月22日(月)

✓ 第145回 MeetUp を開催

2023年6月25日(日)

✓ 報告会2023 兼 第146回 MeetUp を開催

2023年7月24日(月)

✓ 第147回 MeetUp を開催

2023年8月22日(火)

✓ 第148回 MeetUp を開催

2023年9月22日(金)

✓ 第149回 MeetUp を開催予定

会計 2023 年 4～6 月期会計報告

<収入>

受取寄付金	1,115	
利子	4	
計	30,545	

<支出>

ドメイン更新	7,964	
支払手数料	440	振込手数料
計	2,376	

6 月末現在 残高	938,719	
--------------	---------	--

【ファンド係】

編集後記

今年も、春から初夏、梅雨、酷暑へと季節がめぐってきました。いかがお過ごしでしょうか。

本号は、編集担当の対応の遅れにより、発行が 3 カ月も遅れてしまいました。原稿をいただいた皆さまにはお待たせしてしまい、申し訳ありませんでした。

一方で、この間いただいた原稿をまとめて掲載しましたので、盛り沢山です。ぜひ最後まで記事をご覧ください:COVID-19 大学図書館調査チームからの調査に一区切りをつけたことに対する報告

記事(小陳さん+チームメンバーの皆さん)、成果報告会 2023 の報告記事(子安さん)、映画紹介「福田村事件」(谷合さん)などです。

既に谷合さん記事にもある通り、今年、関東大震災から 100 年を迎えます。既に昨年、MLAK 含む多くの組織で展示や特集などを組んでいるかと思いますが、この機会に多くのことを振り返ることができると思いますし、改めて、平時の防災対応の重要性を考えておく必要があると思います。

ここ数年、地震・震災に限らず、水害なども各地で多く発生しており、われわれが対応を考えなければ災害は増えています。

今年も、秋の図書館総合展にあわせて、saveMLAK 主催のオンラインイベントを開催する予定です。詳細が固まり次第、またメーリングリストなどでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

【編集担当:高久雅生】

編集発行:saveMLAK プロジェクト
発行日:2023 年 8 月 26 日(第 78 号)
発行所:神奈川県横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル
さくら WORKS <関内> 408
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail: pr@savemlak.jp
URL: http://savemlak.jp/